

TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大



在来作物と種を守り継ぐ人々の物語
映画「よみがえりのレンピ」の公開にあわせ
六本木でイベントを開催。

山形で農業・料理・文化と深く結びつき伝えられてきた在来作物(伝統野菜)。映画「よみがえりのレンピ」は、失われつつある在来作物を、生産者や大学、レストラン、消費者が一体となって守り、積極的に未来へつなぐ様子から、食へのメッセージを込めたドキュメンタリー作品です。監督の渡辺智史さんは、鶴岡市出身で建築・環境デザイン学科の卒業生。山形に住む当事者の目で映画製作を行い、様々な出会いを大切にしながら映画のプロモーションを展開しています。9月23日に東京で行われたスローフードのイベントでは、ダイジェスト版の上映や山形在来野菜についての解説を行いました。

WEB 六本木農園で行われたイベントの様子を紹介します。

表紙のアート



自由な創造の世界を見せたワークショップ
「キッズ・アート・キャンブ山形 2012」

真っ暗な劇場に浮かび上がる動物のシルエット。不思議な響きの言葉が木々の囁きのように広がり、うさぎ、きつね、おおかみ、いのししに扮した子どもたちが独特の動きを見せながら個性的な家の中に入っていき、舞台「てぶくろ」。福島県南相馬市の子どもたちとその家族、グラフィックデザイン学科の学生たちが見せる躍動感と舞台の完成度に、観客は息をのみました。

WEB 舞台と共に作った学生の声を届けます。

g*gとは

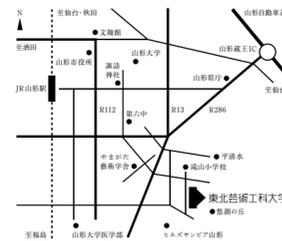
芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがかっこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならずと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。
広報室では、「g*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科 [総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸、陶芸、金工)/テキスタイル]
【デザイン工学部】企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科
【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程 [芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻(仙台スクール)]
【研究機関】やまがた芸術学舎/共創デザイン室/東北復興支援機構TRSO、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所

g*g オフィシャルサイト <http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

大学周辺マップ



東北芸術工科大学広報誌 g*g
2012年10月12日発行
発行:学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL:023-627-2246 FAX:023-627-2185
URL: <http://www.tuad.ac.jp/>
Email: hello-gg@aga.tuad.ac.jp
©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2012
印刷:田宮印刷株式会社

g*g

芸術市民とつとよに創る
芸工大広報誌「ジー・ジー」
Vol.22 AUTUMN 2012
東北芸術工科大学



芸工大 * こども

芸工大が、子ども教育を大切にしているわけ。

東北芸術工科大学に入学してくる若者は18歳くらい。大学に入ってくるまでにもっと芸術と関わってほしいのにな、と僕たち教える側は常に思っています。中学や高校の芸術教育は低調になっていて、芸術に関する知識や感性を、社会が要求もしないし与えてもいません。映画を勉強しに入学した学生ですら、世界的な監督である黒澤明の作品を観たことがない、と答える者も少なくないのです。そういった状態は芸工大だけでなく、日本中の学校で起こっています。絵画や音楽について一番邪心なく向き合える幼児期に、その感性を刺激し、アートに対する心を育み豊かにすること。そのスタートがあれば、小学校、中学校と進学しても、生活や学びが豊かなものになるでしょう。"藝術立国"を提唱する本学では、生き方の哲学、美、というものを真剣に見直し、次代を担う子どもたちには豊かな感情を与えてあげたいと強く思います。

もうひとつ大事なものは、お母さんやお父さん自身にも、アートというものに対して再発見してもらいたいということ。子どもと一緒に学校に通ってもらおうと、生きるデザイン、生活のデザインについても何か得てもらえたら嬉しいです。子どもを預かっている時だけでなく、家庭、地域へと子どもを育てていく場所をつくり広げていくことが、子どもの成長の上ですごく大事なことだと思っています。残念ながら、人は潜在的に持っていたアートの感覚や感情をどんどん失いながら大人になります。芸工大の学生も、豊かだった才能を失いながらここに辿り着くわけですから、子どもはある意味で、僕らや学生にとって先生なんです。学生も子どもと接触する機会を持つことで、得られる部分が多くなるはず。 (東北芸術工科大学 学長 根岸吉太郎)



こども芸術大学は、芸術の英才教育型の教育機関だと思われ方が多いようですが、そうではありません。毎日の生活の中で「ふと見たもの」「出会ったこと」に対する気持ちをどれだけ育むことができるかが重要だと思っています。心の豊かさは人間としての骨格をつくり、美しいと思うこと、悲しいと思うことを友達と共有していくなかで、社会で生きていく力が育っていきます。また美しいと思う気持ち、感動する心は、造形活動、芸術活動にも通じるものです。ひとりの人間として生きていく上で大切なこと、当たり前なことを、とても丁寧に展開しているのが、こども芸術大の特徴なのです。(こども芸術大学 田中洋一教頭)

上の息子がこども芸術大に通っているのですが、「毎日が楽しい!」と、いつも言っています。下の子連れで気軽に参加できるのもいいですね。(参加者: 須田さんと息子さん・2歳)

いろいろな色の絵の具を手で混ぜたら、冷たくて気持ちよかったです。友達を触るのが楽しかった!(こども芸術大の子どもたち)

芸術を通して子どもに関わる進路を考えていて、こども芸術大にはよく来ます。もう顔覚えられていますね。子どもの感じ方や反応を注意して観察しています。(総合美術コース4年 佐藤晴香さん)

私たちは、子どもたちの「感じる心」を大切に、喜怒哀楽を表せる、心を沢山動かせる環境づくりを意識しています。子どもへの問いかけを通し、子どもたちが自分なりに感じたり考えたことを、自分の方法で表現できるように「ありのままのあなたがいいよ」という気持ちを込めて関わっています。こども芸術大での3年間は、これからの土台を築く自分作りの時期。芸工大の先生や学生さん、多くの友達やお母さんたちの多様な価値観に触れ、過ごすことができる場所がこども芸術大学です。子どもたちには、自己肯定感を高め「自分」を作っていくって欲しいと思っています。(こども芸術大学 齊藤祥子先生)

自分の表現を突き詰めることだけでなく、子どもと思いを共有する楽しさを経験しています。(総合美術コース4年 栗野春香さん)

こども芸術大学、1歳児のための「だっこ」。親子で出会う、たくさんのはじめて

1歳児を対象に、子どもと母親と一緒に「はじめて」に出会うことをコンセプトにした活動「だっこ」では、母親が傍観者ではなく子どもの気持ちに寄り添い、共感することを大切にしています。絵の具や粘土などへの反応を母親が子どもの表情を見て読み取り「楽しいね」「少し気持ち悪いね」と子どもの感情を、言葉にしていきます。感情に「名前」をつけてあげること、子どもは安心して感情を表し、この繰り返しが、豊かな表現ができるようになることへと繋がっていくのです。

子どもとの関わりから学ぶ、全学共通の教養科目

芸工大では、学生が大学生として応じたい教養と社会性を身につけるために、全学共通の教養科目群を設けています。コミュニケーション能力を磨く科目や就職活動をサポートする科目のほか、特徴的なものが共通演習「芸術と子ども」や総合演習「子どもの心理」。学科やコースに関係なく履修することができます。こども芸術大学の子どもたちと共に授業を行います。幼児と運動や遊びの関わりについて発見し、様々な視点で社会での自らの専門領域を考える機会としています。



ドレスコードは、しましまの服。
青空の下で「福しまビクニック」

村山市農村文化伝承館を会場に、福島県と山形県のご家族が交流するワークショップ「福しまビクニック」。2年目の今年は農産物の収穫時期に合わせて年4回を実施予定です。内容は、(山形ガールズ農場)が企画する農業体験、生花生産者のユニット(floRE:ふらり)の花育、学生による造形遊びなど。子どもが飽きずに楽しむことができ、お父さんお母さんが安心してそれぞれの時間を過ごせる、創造的なプログラムです。

WEB イベントの様子をご紹介します。

「キッズ・アート・キャンプ山形」では、グラフィックデザイン学科の学生が中心となり舞台美術や音楽などを担当しました。昨年も南相馬の子供たちとの活動を行って実績はありましたが、今年はより創作性が高い即興の表現活動だったので、子どもと学生、クリエイターの世界観を合わせることで化学反応が起こることを狙い事前に会議を重ねました。子どもたちを迎えるにあたり、学生が課題として取り組んだのは、限られた時間、即興の緊張感の中で、子どもと一緒に実験を楽しむチーム作りです。南相馬の子どもたちの反応や学生の想いを聞くことが大成功だったと思います。(グラフィックデザイン学科 原高史准教授)

演出、ダンス、衣装の先生が素晴らしい方々で、こんな体験ができることに感謝しています。学生の熱心な姿にも感心。来年も楽しみです。(参加者:佐藤さん)

初めてだったので戸惑うところもありましたが、みんなでものを作するために力を出し尽くしました!(京都造形芸術大学2年 帯金さん)



夏の夕闇を幻想的に彩るワークショップ。
やまがた藝術学舎に表れた「みずのみち」

アーティストの曾谷朝絵さんを講師にお招きし、松見町にある市民の方と芸工大との接点である、やまがた藝術学舎を会場として、ワークショップ「みずのみち」を開催。“水”のイメージで切り取った七色に光るフィルムを、親子が窓ガラス一面に貼りつけて大きなひとつの作品を制作しました。日が落ちて、懐中電灯をフィルムに当てると空間を漂うように「みずのみち」が表れます。子どもたちは白い紙の服をかぶり、自分の体に不思議な光の模様が出される幻想的な時間を楽しみました。

ハサミを動かし会話をしながら仲良く楽しんでいきます。子どもの可能性を広げる機会をもらいました。(参加者:藤岡さんと息子さん・7歳)



人や社会を見つめ、明日をデザインする力。
「全国高等学校デザイン選手権大会」

高校生の視線で社会や暮らしの中から課題を見つけ、解決方法を考え表現する「全国高等学校デザイン選手権大会」通称「デザセン」。全国各地の高校生がデザイン力を競います。審査するのは、本学教授陣や第一線で活躍するデザイナーやアートディレクター。デザセンには約60名の大学生スタッフが携わり、高校生チームのサポートや展示、会場づくりを手伝っています。高校生ならではの感性にふれ、学生たちも刺激を受けています。

WEB 決勝大会に進出する川崎総合科学高等学校チームをご紹介します。

HEADLINE

普段子どもと過ごす時間が取れなかったので、来れてよかったです。そば打ちも美味しくできました。ジャム作りも楽しみです。(参加者:佐藤さんと娘さん・2歳)

暗闇で子どもが怖がるかな、と思いましたが集中して耳をすまし、抽象的な内容を楽しんでいました。(観覧者:森奈さんと息子さん・2歳)

6 さい

8 さい

10 さい

自分の体だけでインクを表現することが、学校ではあまりないことなのですごく楽しかったです。(参加者:佐藤さん・10歳)

キッズ・アート・キャンプ、ブラボー! 伊勢丹の「子ども芸術の家」はプロジェクトを支援しているんですよ。(京都造形芸術大学 後藤教授、株式会社三越伊勢丹 西村部長) WEB 詳しくはWEBへ

興味本位で参加しましたが、やっているうちに子どもとの会話が楽しくなってきました。続けていきたいと思うようになりました。(洋画コース1年 斉藤綾子さん)

「福しまビクニック」に参加するのは4回目。盛りだくさんの内容なのにのんびりとした雰囲気がある、素敵な空気感が気に入っています。畑で農産物を収穫したり大勢で手を動かす経験は貴重ですね。4歳の娘にとっては、ヒョウタンの中に隠したお菓子探しが一番楽しかったみたいです。(参加者:加茂さんと娘さん・4歳)



子ども芸術の家プロジェクト

東北芸術工科大学では、東日本大震災の被災地の子どもをサポートに関する活動を、「子ども芸術の家プロジェクト」と名づけ、姉妹校の京都造形芸術大学との共同事業として実施しています。また、この事業へ共感をいだいている株式会社三越伊勢丹より活動支援を受けており、同社主催の新鋭アーティスト作品展にてチャリティ・オークションを実施し、その売り上げの全額が「子ども芸術の家プロジェクト」に寄付されています。キッズ・アート・キャンプや福しまビクニックなどの活動も、プロジェクトのひとつとして援助を受けて実施しています。



幻想的な雰囲気の中、躍動する南相馬の子どもたち。
新訳・東北版の舞台「てぶくろ」

8月3日から5日の3日間、福島県南相馬市の子どもたちとその家族を大学へお招きし、アート体験で夏の思い出を作る「キッズ・アート・キャンプ山形2012」を開催しました。ウクライナ民話「てぶくろ」を題材に、ダンスやファッション、音楽、舞台美術のワークショップを開き、各分野を専門とするクリエイターが子どもたちの創作活動サポート。完成した新訳・東北版の舞台「てぶくろ」は、キャンプ最終日に子ども芸大の劇場で上演、一般公開しました。

WEB 「表紙のアート」の記事としてWEBで詳しく紹介しています。

HEADLINE

12 さい

15 さい

17 さい

こういつたワークショップでは本物のアーティストの方と触れ合えるので、作品と人がしっかり繋がっていることを、子どももちゃんと意識しているようです。(参加者:布施さんと娘さん・11歳)

「みずのみち」は私の今までの作品の流れとつながっていて、皆で作った水の形が重なって大きな道になるというものです。一番のお楽しみは、暗くなってから懐中電灯で道を照らし、いろいろな形が天井や壁に映し出される時。模造紙や白い服に模様が出されて人間スクリーンみたいになります。外からと中からは当て方によって光り方が違ったり、大きさが違ったり、子どもにはとにかく光を楽しんでもらいたいですね。普段の意識にはない光の特性を使いながら全身で遊ぶことで、身体感覚に光を感じるチャンネルを合わせるような体験になれば、と思っています。(アーティスト 曾谷朝絵さん)

普段の生活では役に立たないような発想を、提案としてまとめていくことはとても勉強になったと思います。(川崎総合科学高等学校 高野先生)

3人の主張がぶつかって息が合わない時もありましたが、決勝大会のプレゼンテーションでは工夫を凝らして楽しい提案をします!(川崎総合科学高等学校3年 河田さん、笠倉さん、滝口さん)



連続シンポジウム
「日本の美術教育を考える」

いま、中学校や高校の美術教育の機会が激減し、専任の美術教員がない学校も増えています。美術に対する社会的な興味関心が薄まり、世界に通用するアーティストも出にくいという悪循環が進んでいます。そこで、「そろそろ、オールジャパンでアーティストを育てる仕組みを考える必要があるのではないか?」という宮高達男副学長の旗振り、連続シンポジウムを開催しています。第1回は10月3日に外苑キャンパスで開催。講師に茂木健一郎氏とやなぎみわ氏をお迎えし、多くの来場者と共に、これからの美術教育の方向性を考えました。2回以降の開催日時などは、下記HPをご覧ください。
URL: <http://www.tuad.ac.jp/nihonno/>



芸工大 * アートイベント

人と街とアートが織りなす、山形の新たな風景。
夏のアートプロジェクトが見せる次のビジョン。

地下通路にスポットを当てたアートプロジェクト、
アフィニス音楽祭での制作、地域と人をつなぐ「ひじおりの灯」など、
芸工大の夏は課外活動の季節です。

伝統産業と新たな感性の出会い。山形市中心街の地下道に出現した、光のトンネル。

●「和紙の森×若者の声プロジェクト」会期：8月5日～7日／場所：山形市幸町（十字屋前の地下通路）

山形花笠まつりで賑わう8月5日から7日の3日間、山形駅近くの
交差点をくぐる地下通路が、巨大な和紙で覆われた空間によ
って光るトンネルへと姿を変えました。この企画は若者文化振
興事業として山形県の委託を美術科が受け、山形大学、東北
文科大学の学生らとともに約2ヶ月をかけて取り組んだもの。限
られた予算の中で試行錯誤の上、山形としての特色を出すた
めに、農業用ビニールハウスのフレームと地元の伝統産業のひ
とつである和紙を使用しました。3m×4mの巨大和紙20枚は、
和紙職人と相談し、網目の荒い布を地面に敷いた上に水の中
でほぐした楮を直接手で蒔いていく、大胆な方法で制作。指
導を担当した中村准教授は、「屋外で和紙づくりをしていると、
他の専門の先生方がアイデアやアドバイスをしてくれて、学生

たちの力になりました。こういったプロジェクトは学科やコースを
越えて広がり、地域の人や技術と結びついてさらに発展してい
くといひです」と、今後の展開に期待を寄せました。期間中、
地下道では通るかかった方から地元への声を寄せていただき、
壁面に張り出す事でそれぞれの思いを共有できる場としても機
能。光を包んだ和紙の美しさと創造性ある学生の元気な姿は、
訪れた人々に驚きと新たな山形の印象を残したようです。

写真1：和紙が包んだ柔らかな光のトンネルは、無機質で
暗く閉ざされた地下通路を別世界に。写真2：訪れた人の
声をトンネル内に展示し、山形や故郷に対する気持ちを見
る人と共有。写真3：クリスマスに制作したイルミネーシ
ョンが、地下通路の入り口に再登場。

1		
	2	
		3



学生たちと一緒に協力して和紙制作をする中村准教授（写
真中央）。試行錯誤しながら辿り着いた巨大和紙の制作は
広いスペースを確保するため屋外で。

イメージは“煌めき”。「アフィニス夏の音楽祭2012山形」に目で楽しむ音楽を。

●「アフィニス夏の音楽祭2012山形アートプロジェクト～煌めき」会期：8月17日～25日／場所：文翔館前広場、山形テルサ、山形駅自由通路

世界で活躍する演奏家と全国のプロオーケストラが集い、セミ
ナーやコンサート、音楽交流プログラムを隔年で行う「アフィ
ニス夏の音楽祭2012山形」。2010年に続き、美術科の学生が主
体となり、コンサート会場および文翔館前に展示する屋外ア
ート作品を制作しました。音楽祭のメイン楽曲「ブラームス交響曲
第4番」とポスターに選ばれた絵画からイメージを広げ、決定し
た今年のテーマは“煌めき”。文翔館前に設置したのは音楽のリ
ズムを表現した流線形が美しい、高さ3m、長さ30mにおよぶ巨
大なオブジェです。使用した素材は農業用のグラスファイバー
製の棒と青いネット。繊細なカーブを描く骨組みを結束バンド1
万個で留め、被せたネットを縫い合わせました。制作の指導に

当たった吉賀講師は「限られた時間の中で学生たちが本当によ
くやってくれました。サイズが大きすぎて、当日夜に会場まで
歩いて持っていかなければならない、というハプニングもあり
ましたが、それだけに並々ならぬ達成感がありました」と、振り返
りました。会場の中で耳で楽しむ音楽祭を、「ブラームス交響曲
第4番」を立体化し町の中に展示することで、多くの市民の方へ
目でも楽しめる機会を生み出したようです。

写真4：文翔館の直線的なデザインとの対比、重なりと変
化して見える色の深さ、浮遊感ある造形のおもしろさが際
立った仕上がり「青い煌めき」。写真5：山形テルサ会場
に設置した、美術科チヤスタイルコースの作品。写真6：山
形テルサ会場を明るく包んだ「意からの煌めき」。

4		
5	6	



現場では学生の主体性を活かしながら指導にあたったとい
う吉賀講師（写真中央）。多くの学生が制作に関わりアイ
デアを出し合いながら立体的な構造が決まった。

夏の夕暮れに灯る「ひじおりの灯」。人と街を自然に動かすアートプロジェクト。

●「ひじおりの灯」会期：7月28日～9月17日／場所：山形県大蔵村肘折温泉街

湯治文化が色濃く残る、大蔵村肘折温泉の夏の風物詩「ひ
じおりの灯」を今年も開催しました。2007年から始まったこのプロ
ジェクトも今年で6回目。今年は温泉街の中心地にある、趣き深
い旧郵便局舎を使用することが可能となり、これまで作った灯
ろう絵の中から地域の人々が中心となって名作を選出。美しい
絵柄が描かれた紙を貼り直し、雨天でも灯ろうを楽しむことが
できるように展示しました。学生たちが実際に肘折を訪れ、滞
在し、宿や商店の人々と交流しながら制作していくという過程
は、いきいきとした絵柄を生み出すだけでなく、人と街との新た
な関係性を育んできました。制作した学生が卒業後も肘折を
訪れ交流し、地元青年団に加わって町づくりに参加するなど、

回を重ねるごとに地域とのつながりは深く世代の幅も広くな
ってきています。例年企画を担当している本学学芸員の宮本准
教授は、「肘折に帰ってくる若者が徐々に増えています。若い
人同士が交流し地元青年団などで活躍しはじめるという動き
は、地域が持続的に発展するためには一番重要なこと。当初か
らのひじおりの灯のスタイルを大きく変えず、これからも継続し
ていくことで、そういった動きが育ってくるでしょう」と語りました。

写真7：民宿や商店の軒先に吊り下げられた灯ろうは夕方
6時から8時まで点灯。この日は制作者が作品制作の意図
やエピソードを、集まった来訪客に紹介。写真8：人々の暮
らしや古い民話、家々に伝わる逸話などを描いた灯ろうは
どれも個性的。温泉街を幻想的な雰囲気。

7	8	



関連イベントの「月山若者ミーティング～山形のうけつぎ方」
で、働き方研究者・西村佳哲さんと語り合う宮本准教授（写
真右）。山形の5人のカルチャーリーダーと意見を交わした。

NEWS & TOPICS



真夏の山形に響いた和太鼓の音とリズム。「2012 大恵 夏公演」

和太鼓演奏グループ「太恵」では「2012太恵 夏公演」を7月21日に本学体育館で開催。太恵学生組と学生有志、生涯学習プログラム「感性の和太鼓」受講生、太恵こども組が伝統曲や太恵の創作曲などを披露。稽古を重ねた迫力の演奏で、約400名の来場者を魅了しました。

飯塚花笑さん監督作品「僕らの未来」山形、東京、大阪、京都で上映

映像学科3年の飯塚花笑さんが脚本、監督をした映画「僕らの未来」が下記の3つのイベントで上映されました。この作品は2011年の「第33回あフィルムフェスティバル」で受賞候補17作品中に最年少ノミネートされたほか、「2011年バンクーバー国際映画祭」のドラゴン&タイガー部門（アジア部門）出品作品としてノミネート、2011年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映されるなど、数々の映画祭で高い評価を得ています。◎「ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形in東京2012」会期：8月18日～31日／9月1日～21日◎「山形国際ドキュメンタリー映画祭2013プレイベント」会期：8月19日、25日、26日◎「関西クイア映画祭」会期：9月15日～17日／10月12日～14日



山形が好きになるワークショップ「紅花ペーパーに描こう」

総合美術コース1年生50名が創作活動によるコミュニケーションの場づくりをテーマとしたワークショップ「紅花ペーパーに描こう」を、河北町のサトハに花で6月21日に開催。約100名の子どもと学生とで、紅花で染めた障子紙にクレヨンを使って絵を描き、それらを繋げて大きな作品を制作しました。◎協力：花澤洋太（美術科准教授）／青木拓（大学院洋画領域修士生）／須藤修（プロダクトデザイン学科卒業生）／ごとうひとみ（アートコーディネーター）



「再興第九十七回 院展」に日本画コース学生、卒業生が多数入選

東京都美術館で9月1日～16日に開催された公募展「再興第九十七回 院展」で日本画コースの在学生、卒業生多数入選。香場三雄准教授の作品「タルチョ舞う中」が日本美術院賞と足立美術館賞を受賞しました。◎出品：松本哲男（名誉学長）／香場三雄（准教授）日本美術院賞・足立美術館賞／谷善徳（准教授）／大山龍顕（研究員）／鬼塚堅太（以下、卒業生）／桑原武史／高橋一徳／高橋誠／竹田陽子／千種伸宜／中井香奈子／山田美知男／森山育恵 初入選（以下、院2年）／渡邊静香 初入選／古田和子（学部4年）／吉住神奈 初入選（学部2年）◎主催：公益財団法人日本美術院 URL: <http://nihonbijutsuin.or.jp>



北欧の雰囲気に包まれた一日。映画祭「みる、つくる、北欧の日」

東日本大震災チャリティイベント「みる、つくる 北欧の日 みゆき野映画祭in斑尾2012」の山形会場を大学院2年の田中可也さんが企画し、6月24日に山形まなび館で開催しました。北欧に関する短編映画の上映、絵本の展示や雑貨の販売などを実施し、映像学科の在学生や卒業生もボランティアスタッフとして関わりました。◎主催：スノーコレクティブ URL: <http://miyukino.snowcollective.com/home>

優秀賞に輝いた佐藤志保さん写真展「念力、滲透、輪郭」に出品

映像コース卒業生の佐藤志保さんが、株式会社リョーが主催する「リョー ホートフォリオ オーディション」で59名の応募者の中から優秀賞を受賞。6月13日～24日に東京の三菱ドリームセンターRING CUBで開催された受賞展「佐藤志保、畠山雄豪、人見将の写真展「念力、滲透、輪郭」」に出品しました。◎審査員：飯沢耕太郎／野野隆大 URL: <http://www.ricoh.co.jp/>

一瞬の輝きを未来へ託す。芸工祭「SUPERNOVA」を開催

芸術やデザインを身近に感じていただく機会として、大学祭「芸工祭 SUPERNOVA」を9月22日～23日に開催。本館正面広場や演習室などを使用し、在学生による自主企画展やサークルイベント、アートやデザインの作品展、作品を販売する模擬店、軽食屋台やカフェなどで来場者を迎えました。校友会ブースでは、作家として活躍する卒業生が手掛けた器や手作り雑貨などを販売。2日目は生憎の雨でしたがクロージングイベントのひとつとして花火も打ち上げ、晩夏の夜空を飾りました。◎主催：芸工祭実行委員会



産業復興を目指す岩手県大槌町で「家具のはしっこによるものづくり」

西澤高男 建築・環境デザイン学科准教授が中心となり、株式会社多田木工製作所や林業、木工産業復興に尽力する方と共に、家具の端材を活用するワークショップ「家具のはしっこによるものづくり Plywood Transform Project 2012」を8月4日～15日に岩手県で開催。地元で生産できる木工製品を考案し、被災地の産業復興をデザインの力で支援するもので、8月4日はプロダクトデザイン学科の学生19名が作品のプレゼンテーションを実施。製品化に向けた検討や販売を行いました。 URL: <http://www.tadamokko.com/collabo2012/>

五感を使った遊びで子どもに元気を「あそびのえんにちin石巻」

澤口俊輔 グラフィックデザイン学科准教授と学生有志25名が小学生を対象としたワークショップ「あそびのえんにち」を8月19日に宮城県石巻市で開催。これは身体や五感を使ったオリジナルの遊びを通じて「表現」「デザイン」「コミュニケーション」やデザインの可能性を追求するもの。Tシャツやメモパッド作りのほか、絵本作家の菊田まりこさんをお招きし、絵本の読み聞かせなども行いました。また、この記録展示を8月28日～9月2日にSARP（仙台アーティストランプレイス）で開催しました。◎協力：アトリエ・コバン造形教育研究所／ユエゾン



高田純嗣さんの金属立体作品がU35サポートアワードを受賞

大学院修了生の高田純嗣さんが「JAPAN INSTITUTE U35 次世代育成全国公募展」でU35サポートアワード（ギャラリーバリエ）を受賞。横浜市のGALERIE PARISで2013年2月5日～9日に受賞記念個展が開催されます。◎主催：JAPAN INSTITUTE 日本文化芸術機構 次世代育成全国公募展 URL: <http://www.japaninstitute.jp/u35jp>



夏の夜を涼やかに演出した一週間「Lighting Object 2012」

工芸コースとテキスタイルコースの3年生37名が約半年をかけて制作した光のオブジェを展示し、夏の夜を涼やかに彩る恒例の作品展「Lighting Object 2012（ライティングオブジェ）」を7月18日～25日に開催。本館1階と正面広場に、素材を活かした優しい光で灯る立体作品37点を展示しました。なお、開期終了後に作品を一定期間お貸しする里親制度を設けており、希望者へ作品を貸し出しています。



「東北未来絵本キャンペーン」第32回新聞広告賞で最高賞を受賞

宮本武典美術館大学センター准教授が企画などを担当した「東北未来絵本キャンペーン」が「第32回新聞広告賞」の新聞社企画部門で最高賞を受賞。絵本作家の荒井良二氏が、東日本大震災当時の思い、未来への願いを表す言葉を新聞で募集し、そこからイメージした絵を描いて一冊の東北未来絵本を制作。山形県内の小学校や東北各地の図書館などに贈る企画です。関連記事は11ページに掲載しています。◎主催：山形新聞社広告局 ◎協力：東北復興支援機構 TRSO

デザインの未来を担うショーケースに産学連携、エコハウス事例を出品

8月30日～9月9日に東京都のアクシスギャラリーで開催された「第7回 金の卵オールドスター デザインショーケース」へ学生などの作品を出品しました。プロダクトデザイン学科からは、学科演習からの選抜2作品と9名のポートフォリオを展示。建築・環境デザイン学科からは「スマートハウス情報活用基盤整備フォーラム」(eSHIPS) との産学連携プロジェクトの成果を展示。共創デザイン室からは、国内最先端のエコハウスの事例について展示しました。◎プロダクトデザイン学科出品学生：大屋彰／関真実 URL: <http://www.axisjiku.com/jp/>

鎮魂と祈りを込めて。インド舞踏家ラファール・アチャリヤが公演

東北文化研究センターでは、日印国交樹立60周年を記念し、インドを代表する舞踏家を招いた「ラファール・アチャリヤ「MOKSHA」モクシャー解放～」を8月1日に本学の能舞台「伝統館」で開催。500名以上の来場者にお越しいただきました。「MOKSHA」とはサンスクリット語で「解脱」。東日本大震災による犠牲者の鎮魂と一日も早い被災地復興への祈りが込められています。◎企画・製作：マルメロ（斎藤朋）／スワステイカ ◎後援：インド大使館／公益財団法人日印協会 ◎協力：エアンディア

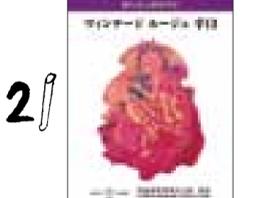
NEWS & TOPICS

卒業生をつなぐ校友会が“絆”をテーマにトークイベントを開催

卒業生同士を繋ぐ校友会主催の「校友大会」を、6月23日に東京のモンスーンカフェ代官山で開催。映画監督の根岸吉太郎学長と、WOWアートディレクターで1期卒業生の鹿野護さんが“絆”をテーマに対談。人間同士の結びつきや、卒業後の進路などを語りました。また既に退職された方を含む教員との懇親会も開催し、交流を深めました。

南相馬市の映画館「朝日座」で「FUKUKOU LIVE×HORS PISTES MINAMISOMA」を開催

岩井天志 映像学科准教授と学生有志が、フランスのボンビドゥーセンター主催の「オール・ピスト東京」と共同し、福島県南相馬市で「FUKUKOU LIVE×HORS PISTES MINAMISOMA」を8月18日に開催。大正時代に建設された会場の映画館「朝日座」は、1991年9月に閉館。震災後の2011年4月より復興へ向けた取り組みを展開しています。◎参加学生：関達也（以下4年）／佐藤那美／中塩健吾（以下3年）／鈴木真実子／佐藤建人 オール・ピスト東京 URL: <http://www.horspisteskyo.com/>



銅版画作品がワインラベルに 吉田理子さんの作品「catch×catch」

仙台市の晩翠画廊が6月26日～7月1日に開催した「蒼龍葡萄酒インラベルコンペⅢ」で、版画コース4年の吉田理子さんの銅版画作品「catch×catch」が選出されました。本学のほか東北の3大学より推薦された総勢24名の学生が、山梨県産の葡萄を使用したワインラベルのデザインを競いました。

朝日町「空気神社」に新たな息吹。佐藤恒平さんがお土産を開発

大学院修了生で山形県朝日町情報交流推進員の佐藤恒平さんが、6月に開かれた空気神社の「空気まつり」の土産開発にプランナーとして関与。「1/144ミニチュア空気神社お守り」や「空気神社のお願いプチプチ」を開発し、販売しました。佐藤さんは4年前から街角として朝日町のキャラクター「桃色ウサビ」を提案し、HPなどでの情報発信にも積極的に取り組んでいます。◎主催：空気まつり実行委員会 朝日町 URL: <http://www.town.asahi.yamagata.jp/>

青山ひろゆき美術科講師がアートとストリートを繋ぐ企画に参加

国内の若手アーティストを支援し、ストリートとアートを繋ぐプロジェクトglambが主催する「glamb presents 12 Emerging Artists」に、青山ひろゆき美術科講師が参加し、芸術のための場所をコンセプトとしたコラボTシャツを制作。7月中旬よりglamフラッグショップで店頭販売されました。シンガポールライターの川本真実さんがモデルとなっています。 URL: <http://www.glamb.com/dealer/main.html>



大権史生さんが紹介する中国雲南省書籍「雲南之肖像」を出版

建築・環境デザイン学科卒業生の大権史生さんが、中国雲南省で4年間にわたって撮影した民族資料をまとめた書籍「雲南之肖像」を出版。伝統的な民族衣装に身を包んだ女の子の写真や、周囲の自然環境と調和した土着的な集落景観の写真を通して、雲南に暮らす数多くの民族を紹介。貴重な記録資料として、現地の研究者等から評価を受けています。「雲南之肖像」◎ISBN:978-7-5489-0781-7 ◎価格：2,858円（税別）◎言語：中国語 URL: <http://www.facebook.com/portraits.of.yunnan>

「2012年度グッドデザイン賞」を受賞。「グッドデザイン・ベスト100」にも選出。

卒業生の萩原尚季さんがプロデューサーを務める「山形まなび館・MONO SCHOOL」が、その運営と活動が評価され、「2012年度グッドデザイン賞」を受賞。また、グッドデザイン賞受賞対象（毎年約1,000件）の中から審査委員が目じた100件に与えられる「グッドデザイン・ベスト100」にも選定されました。◎主催：公益財団法人日本デザイン振興会 山形まなび館 URL: <http://www.y-manabikan.com/>

菊地静プロダクトデザイン学科副手、作品「Opera」で奨励賞を受賞

卒業生でプロダクトデザイン学科副手の菊地静さんがデザインした「Opera」が、山桜の樹皮を使用した木工品をデザインする「SAKURAクラフトコンペ」で奨励賞を受賞。試作品が10月21日（日）～28日（日）に角館榎細工伝承館で開かれる「第40回角館町榎細工伝統工芸展」にて展示されます。 URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~kougei/>



新たな旅立ちの日。前期9月卒業・修了式を開催

2012年度 前期9月卒業・修了式を、9月19日にこども芸術大学こども芸術劇場で開催。根岸吉太郎学長、宮島達男副学長からの激励の挨拶の他、大学歌をゴスペルカル「ウタイビ」が唱い、学部生と大学院生合わせて28名の新たな門出を祝しました。

和田菜穂子准教授が著書で北欧を代表する7人の建築家を紹介

和田菜穂子 美術館大学センター准教授が「北欧でダンハウス 建築家が愛した自邸と別荘」を出版。アルヴァ・アアルトやアルネ・ヤコブセンなど、北欧を代表する7人の建築家を紹介しています。「北欧でダンハウス 建築家が愛した自邸と別荘」◎出版：学芸出版社 ◎価格：2,520円（本体2,400円）◎ISBN:978-4-7615-2534-7

前田哲准教授の映画作品が完成。加藤正人教授の「天地明察」が公開へ

前田哲 映像学科准教授が、監督、脚本を手がけた映画「旅の贈りもの 明日へ」が完成しました。仁科孝祐役の前川清をはじめ、登場人物が過去の大切な思い出を胸に旅に出る物語で、10月27日より全国で順次公開予定です。また加藤正人 映像学科教授が脚本を手がけ、岡田准一と宮崎あおいが主演の映画「天地明察」が、9月15日から全国公開されています。旅の贈りもの明日へ URL: <http://www.tabi-fukui.jp/> 天地明察 URL: <http://www.tenchi-meisatsu.jp/>

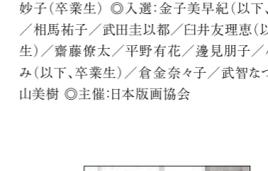


佐藤未希さんが2つのアート展に出品。新作「total eclipse」も

韓国で8月1日～26日に開催されたアート展「ASYAAFA」に、大学院博士課程2年の佐藤未希さんがギャラリー椿から出品。「my cold sea」「mellow fruitfulness」を発表しました。また7月6日～8日にホテルグランヴィア大阪で開催されたアートフェア「ART OSAKA 2012」ではギャラリーYoshimi Artsブースから新作絵画「total eclipse」を発表しました。またこのフェアでは洋画コース卒業生の柿沼瑞輝さんも作品「畏れI」「畏れII」を発表しています。Yoshimi Arts URL: <http://www.yoshimiarts.com> ギャラリー椿 URL: <http://www.gallery-tsubaki.jp/>

版表現を追究する公募展で在學生・卒業生が受賞・入選

版画の可能性を追求し、新しい才能の発掘を目的とする「第80回日本版画協会展」に、多くの版画コースの在学生や卒業生が受賞・入選。10月5日（金）から19日（金）まで、東京都美術館で作品展が開催されます。◎受賞：山口源新人賞 西村沙由里（院2年）／B部門奨励賞 柳原慶（卒業生）／準会員優秀賞 佐藤妙子（卒業生）◎入選：金子美早紀（以下、4年生）／相馬祐子／武田圭太郎／臼井友理恵（以下、3年生）／齋藤修太／平野有花／遠見朋子／小川ひとみ（以下、卒業生）／倉倉奈々子／武智なつ子／畠山美術 ◎主催：日本版画協会



新漫画作品が集英社「金のティアラ大賞」で銅賞を受賞

洋画コース4年生の須藤奈央（作家名：橋藤ナオ）さんの漫画作品「理科室のたろろくん」が、集英社主催の「金のティアラ大賞」で銅賞を受賞しました。女子高校生の里沙と幽霊が主人公の物語で、キャラクターエピソード、ストーリーなどが幅広く評価。8月24日発売の「ガ・マーガレット10月号」に掲載されました。 URL: <http://www.s-manga.net/>

東京企画構想学舎

企画12社セミナー [全13回]

企画構想学科の発展型として外苑キャンパスに誕生した、プロのための講座「東京企画構想学舎」。今回は、社会人向けの連続座学形式プログラム「企画12社セミナー」を紹介します。



東京企画構想学舎では、企画力を活かして現在のビジネスシーンに活力を与えている企業やグループに注目し、連続座学形式プログラム「企画12社セミナー」を開講。実際に現場で活躍している組織のリーダーやプロジェクト担当者、現場クルーの生の言葉をリレー形式で伝え、チームのダイナミズムを体感する13講座を開いています。講師には、株式会社ドウゴ代表取締役会長の川上量生氏、BRUTUS編集長の西田善太氏、ライフネット生命保険代表取締役副社長の岩瀬大輔氏など、多様な分野の第一線で活躍する方々を迎えました。9月26日に開講した第6回の講師は、〈studio-L〉代表取締役である山崎亮氏。自身の活動の核であるコミュニティデザインについて、コミュニティの力を高めて問題を解決していく「人がつながるしくみ」づくりであることを、実践例を通して紹介しました。遊具などの

ハードを作らず、NPOなどの市民が来園者に対してプログラムを提供する仕組みをデザインすることによって来園者数を増やしている「有馬富士公園運営サボート」、過疎化しつつある製材所の広大な敷地と森林資源、木工技術を活かし、泊まり込みで家具造りができる場所へと導いた「穂積製材所プロジェクト」など、次々に語られる企画とその実現に対し、プログラム参加者は興味深く聞き入っていました。また、〈studio-L〉の前身である〈生活スタジオ〉から始まった様々な活動を辿り、興味が一致したコミュニティが「おもしろい!」と思うことを実践し、それを少し変化させて地域を元気にすることに向けて、持続可能になることも自身の経験として話しました。「地域型コミュニティである自治会の加入率が下がっている今、コミュニティの力が下がってきています。これからは

人とつながるきっかけをどう作っていくかが大事になってくると思います。セミナーに参加している方が、コミュニティをつくって実際に何か活動を起こしてくれたらいいですね。その活動が楽しくなってくるとエスカレートして、ひよっとしたらコミュニティデザイン事務所になるかもしれません。僕らがそうですから」と語る山崎氏。セミナーに集まった社会人・若手クリエイターに対して期待を寄せました。



「コミュニティデザインとは、地域に住んでいる人達が自分たちの力で課題を乗り越えていくためのお手伝い。人がつながるきっかけづくりです。方法は地域の人たちと一緒に考えますが、実行するのは地域の人たちなんです」
山崎亮講師 (studio-L 代表取締役)

毎日の暮らしの感性をより豊かに。
東北芸術工科大学の生涯学習。

東北芸術工科大学では、山形の本学キャンパスを会場とした「生涯学習プログラム」と、東京の外苑キャンパスで京都造形芸術大学とともに開講する「芸術学舎」で、生涯学習の機会を広く設けています。

- 山形では下記の2012年度後期講座の受講申込が可能です。
- ◎油彩で静物を描く(初級)「日常空間を彩る静物画を描く」〈申込締切:10月22日(月)〉
- ◎脳の右側で描く超絶技法「既成概念を打ち破る鉛筆デッサン」〈申込締切:10月25日(木)〉
- ◎陶芸講座 日常使いのうつわづくり「土の性質を活かしてうつわをつくる」〈申込締切:10月29日(月)〉
- ◎臨床美術士養成講座5級取得コース(冬)「臨床美術の基礎を学ぶ」〈申込締切:10月26日(金)〉
- ◎臨床美術 アトリエ(冬)「秋草図屏風／透かして描く人物クッキー／描き初め(獅子舞)」〈申込締切:10月26日(金)〉
- ◎省エネ建築診断士養成講座「山形エコハウスで学ぶ省エネ建築の最前線」〈申込締切:11月8日(木)〉



●東北芸術工科大学の「生涯学習プログラム」
〒990-9530 山形市上桜田3-4-5 TEL ☎:0120-25-8160(受付:月～金 9:00～17:30 ※土・日・祝休み)
FAX ☎:0120-41-2154 URL: http://www.tuad.ac.jp/plusart/
●外苑キャンパスでの生涯学習「芸術学舎」
TEL ☎:0120-530-920 Email: office@gakusha.jp URL: http://gakusha.jp/



EVENT SCHEDULE

芸術大 * You

9.25→11.4

大平由香理さん奨学生美術展に出品

大学院日本画領域2年の大平由香理さんが、公益財団法人佐藤国際文化育英財団が主催する「第21回奨学生美術展」に出品します。
●第21回奨学生美術展
会期:9月25日(火)～11月4日(日) 10:00～17:00/金曜日17:00まで/月曜日休館(10月8日開館、9日は休館)
会場:佐藤美術館(東京都新宿区大京町31-10)
URL: http://homepage3.nifty.com/sato-museum/

10.6→12.2

日本の現代美術の魅力「ジバング展」

新潟県立万代島美術館が主催する「ジバング展 沸騰する日本の現代アート」展に、大学院博士領域修了生金子富之さんが出品します。また、三瀬夏之介美術科准教授も出品します。
●ジバング展～沸騰する日本の現代アート
会期:10月6日(土)～12月2日(日) 10:00～18:00
会場:新潟県立万代島美術館(新潟市中央区万代島5-1)
入場料:900円(当日券)



10.7→10.31

「荒井良二の山形じゃあに2012」展

世界的に活躍する絵本作家の荒井良二氏を招き、ジャンルにとられない創作手法やアートを用いた実験ワークショップと作品展「荒井良二の山形じゃあに2012」を開催します。9月2日の映像ワークショップ「ぼくらの七日町じゃあに」で撮影された七日町の映像による10本の架空短編映画も上映します。
●荒井良二の山形じゃあに2012
会期:10月7日(日)～31日(木)
会場:山形まなび館(山形市本町1-5-19) / やまがた芸術学舎(山形市松見町17-1) / ミサクラス / 花小路トランク
URL: http://www.yamagata-journey.com/

10.8→10.22

自己推薦入試、出願開始

試験概要は募集要項をご請求の上、ご確認ください。
●自己推薦入試
出願期間:10月8日(月)～22日(月)
試験日:11月4日(日)

10.11→10.28

恵塾画廊21周年記念、新作陶芸展

山形市内にある恵塾画廊の開設21周年を記念して、美術科工芸コースの教員による作品展を開催します。
●東北芸術工科大学陶芸教授・講師陣による新作陶芸展
会期:10月11日(木)～28日(日)10:30～18:30/火曜日定休
会場:恵塾画廊(山形市七日町2-1-38)

10.17→11.8

「声」で交差する人々の存在
「声プロジェクト」では様々な「声」を集め、「声」で

他者の存在を感じとり、「声」を交差させる場を提供します。「声」を通じ色々な情報が集まり、自然と人々の輪ができる仕組みを持たせた、若手アーティスト2人による作品展です。

●TUAD mixing! 2012 声の記憶 Memory of Voice
会期:10月17日(水)～11月8日(木) 11:00～18:00/屋外展示10月16日(火)～31日(木)
会場:本館7階ギャラリー、本館前広場
出展:グラフィックデザイン学科 原高史准教授× Responsive Environment(建築・環境デザイン学科 西澤高男准教授)
企画、お問合せ:美術館大学センター

10.18→10.21, 11.8→11.11

本学初! ICAFに4名が出品

「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAFF)」に映像学科の大学院生や卒業生4名が選出され、展示上映されます。学生による優秀なアニメーション作品を集め各地を巡回するフェスティバルで、本学からは初出品です。
●インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル
出品:前田結歌「まだだかるた」(院1年) / 松山寛子「こどもの塔」(院1年) / 齊藤達也「傀儡世代」(卒業生) / 滝尻愛「遅れ、遅れよ」(卒業生)
主催:インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル実行委員会
URL: http://www.icaf.info/
○京都会場
会期:10月18日(木)～21日(日)
会場:京都国際マンガミュージアム
入場料:ミュージアムへの入場料が別途必要
○金沢会場
会期:11月8日(木)～11日(日)
会場:金沢21世紀美術館
入場料:無料

10.25→11.7

地域文化遺産を守り伝える使命

文化財保存修復研究センターは、2001年の設立以来、東北を基盤に地域文化遺産を守り伝える活動を行っています。これまでを振り返りながら、保存修復活動をご紹介します。身近な地域文化遺産を再認識するきっかけになれば幸いです。
●地域文化遺産と保存修復～文化財保存修復研究センター10年の取り組み～
会期:10月25日(木)～11月7日(木) 9:00～20:00/土曜日は17:00まで/日祝休館
会場:図書館2階スタジオ144
主催:文化財保存修復研究センター
URL: http://www.iccp.jp/
○トークイベント
日時:10月25日(木)、26日(金)、30日(火)、11月1日(木)、2日(金)、5日(月) 17:00～

10.25→11.7

デッサンか小論文での入試、出願開始

試験概要は募集要項をご請求の上、ご確認ください。
●デッサン特別選抜入試、小論文特別選抜入試
出願期間:10月25日(木)～11月7日(水)
試験日:11月15日(木)

10.28

ついに決戦! デザゼン決勝大会

日本国内はもちろん、韓国チームからも応募のあった今年のデザゼン。9月上旬の二次審査で選ばれた12チーム(校)が、自分たちのアイデアを7分間で発表し、優勝提案を決定する決勝大会を開催します。高校生たちの新鮮な視点で着目された、若々しく真つ々たる提案内容に、誰もが感動させられるはずです。
●デザゼン2012 決勝大会
日時:10月28日(日) 12:30～17:00



「B+E」では、在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受賞情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

会場:東北芸術工科大学 本館3F 201講義室
入場無料/予約不要

11.2→11.3

デザインの世界に触れる2日間

東京デザインサズウィークの開催に合わせて、プロダクトデザイン学科の作品展のほか、11月3日には高校生向けのイベントや中学高校教員対象の講演会を開催します。
●デザインの世界に触れる
会期:11月2日(金)～3日(土) 10:00～18:00/3日は16:00まで
会場:東北芸術工科大学外苑キャンパス
○デザイン実況中継ツアー
日時:11月3日(土) 9:00～16:00
対象:高校生(要事前申込)
○デザインセッション
日時:11月3日(土) 16:00～
対象:中学・高校教員(要事前申込)へ

11.10

秋を体感「福しまビクニック」

本紙4・5ページでも紹介している、福島県からの転入者向けワークショップイベントを11月も開催します。
●福しまビクニック
日時:11月10日(土) 10:00～15:30/現地集合・現地解散
会場:村山市農業文化保存伝承館(村山市大字河島元杉島1315-1)
対象:東日本大震災後に福島県から山形県に転入されたご家族
定員:60名程度 ※締切:実施日の2日前迄
教材費:1,000円(高校生以下無料/保険料含む)
お申込み:東北復興支援機構TEL:023-627-2218

11.11

音楽文化を発信「月山青春音楽祭'12」

企画構想学科の授業「ディレクション演習2」の一環として、音楽イベント「月山青春音楽祭'12」を企画・実施。月山の麓で、発起人でもあるJUN SKYWALKER(S)の寺岡呼人氏と共に、誰もが音楽を楽しめる文化を山形の廃校から発信します。
●月山青春音楽祭'12
日時:11月11日(日) 9:00～20:30
会場:月山青春音楽学校(旧・西川町西山小学校)
入場料:青春音楽切符(セット券)4,000円/出羽三山校舎入場券1,000円
URL: http://www.gassan-fes.com/

11.15→11.26

写真展「忘れてはならない311」

年間8万枚の撮影、60万字の執筆を行なフォトジャーナリストかきこ氏をお招きし、講演会や様々なイベントを開催します。このイベントは、卒業生の小松恭子さんが企画・主催をしています。
●フォトジャーナリストかきこ氏 写真展「忘れてはならない311」
会期:11月15日(木)～26日(月) 10:00～18:00/21日休館/最終日15:00まで
会場:さかた街なかキャンパス(酒田市中町1-8-5)
○講演「被災地取材で感じた防災の教訓」
日時:11月17日(土) 14:00～15:30
○講演「好きを仕事にする方法」
日時:11月17日(土) 16:00～17:30
○写真教室「写真がうまくなる撮影術」
日時:11月18日(日) 16:00～17:30
参加費:1,000円

11.23→11.25

GOOD DESIGN EXHIBITION 2012

国内外の優れたデザインを評するグッドデザイン賞受賞発表展「グッドデザインエキスポ」の会場に、プロダクトデザイン学科のブースを出展します。

●デザインコミュニケーション出展
会期:11月23日(金)～25日(日) 10:00～19:00/最終日は16:00まで
会場:東京ビックサイト
入場料:一般(高校生以上)1,000円



11.30, 1.9, 1.16

日本の芸術教育を考える

世界で活躍を続けるアーティストや教育に関心を持つ人々で、日本の芸術教育を考えるシンポジウムを開催します。毎回、Ustreamを使用して生放送予定ですので、ご東場が難しい方でもインターネットを通じてご参加可能です。なお、第1回は終了しました。
●連続シンポジウム「日本の美術教育を考えるー今の日本から世界のトップアーティストは育つのか?」
会場:外苑キャンパス(港区北青山1-7-15)
対象:芸術やデザインに興味をお持ちの一般の方。
コーディネータ:宮藤達男(各回)
申込不要/入場無料
Ustream URL: http://ustream.OJWtr
○第2回「教育でアーティストは育ち得るのか?」
日時:11月30日(金) 19:30～21:00
講師:大竹伸朗
○第3回「世界標準の表現者の学びとは?」
日時:2013年1月9日(水) 19:30～21:00
講師:佐藤幸×杉本博司
○第4回「世界で通用するアート教育とは?」
日時:2013年1月16日(水) 19:30～21:00
講師:西沢立憲×名和晃平

1.7→1.23

一部を除き教科科目のみで受験可能

試験概要は募集要項をご請求の上、ご確認ください。
●一般入試前期/センター利用入試(1科目/2科目)
出願期間:2013年1月7日(月)～23日(水) ※2科目利用は28日(月)まで
試験日:1月31日(木) ※2科目利用は個別試験無し

1.16→1.22

しようじまさるさんの作品が受賞

美術科卒業生のしようじまさるさんの作品「被災して、1年たった今、表現するもの」が、若手美術作家による公募展のトニーウォンダーウォール2012で選出され、受賞作品展として東京都庁に出展します。
●トニーウォンダーウォール都庁2012受賞作品展
会期:2013年1月16日(水)～22日(火) 9:00～18:30/19、20日は休館/入場無料
会場:東京都庁第二本庁舎1階(東京都新宿区西新宿2-8-1)
○オープニングトーク
日時:2013年1月16日(水) 17:30～18:30

1.22→1.29

工芸・テキスタイルコース作品展

美術科工芸コースとテキスタイルコース2年生による、課題作品展を開催します。
●工芸・テキスタイルコース2年生課題作品展
会期:2013年1月22日(火)～29日(火) 9:00～17:00/月曜日休館
会場:悠創の丘 悠創館